

第6号報告

健全化判断比率の報告について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成19年法律第94号）第3条第1項の規定により、監査委員の意見を付けて、下記のとおり健全化判断比率（平成30年度決算数値）を報告する。

令和元年8月30日

稲城市長 高橋勝浩

記

（単位 %）

実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
—	—	2.7	33.7
(12.62)	(17.62)	(25.0)	(350.0)

備考

- 「—」は、実質赤字額若しくは連結実質赤字額がないこと又は実質公債費比率若しくは将来負担比率が算定されないことを示す。
- 括弧内の数値は、稲城市に該当する早期健全化基準を示す。

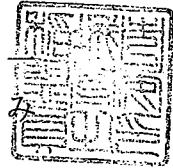




稲 監 第 418 号
令和元年 8 月 20 日

稲城市長 高 橋 勝 浩 様

稲城市監査委員 軍 司 信
稲城市監査委員 坂 田 た け ふ み



平成 30 年度健全化判断比率の審査意見について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第 3 条第 1 項の規定に基づき審査に付された健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類について審査した結果、別紙のとおり意見を付します。



平成 30 年度 健全化判断比率審査意見書

第 1 審査の概要

1 審査の対象及び範囲

平成 30 年度健全化判断比率（実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率及び将来負担比率）及びその算定の基礎となる事項を記載した書類

2 審査の実施期間

令和元年 7 月 17 日から令和元年 8 月 19 日まで

3 審査の手続

審査は、提出された健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類が地方公共団体の財政の健全化に関する法律等関係法令に準拠して適正に作成されているかについて、通常実施すべき審査手続及び必要と認めるその他の審査手続により実施した。

第 2 審査の結果

審査に付された下記の健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正に作成されているものと認められた。

記

(単位：%)

指 標	平成 30 年度	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	非該当 (△ 4.55)	12.62	20.00
連結実質赤字比率	非該当 (△12.71)	17.62	30.00
実質公債費比率	2.7	25.0	35.0
将来負担比率	33.7	350.0	

備考：実質赤字額又は連結実質赤字額がない場合は、「非該当」を記載している。

なお、参考のため、計算上の数値を括弧内に記載している。

1 実質赤字比率について

平成30年度の一般会計等の実質収支額は黒字であり、実質赤字額はなかった。

2 連結実質赤字比率について

平成30年度の一般会計等とそれ以外の特別会計及び地方公営企業会計の実質収支額は黒字であり、連結実質赤字額はなかった。

3 実質公債費比率について

平成28年度から平成30年度までの3か年平均の実質公債費比率は2.7%であり、早期健全化基準の25.0%を下回る水準となっていた。

4 将来負担比率について

平成30年度の将来負担比率は33.7%であり、早期健全化基準の350.0%を下回る水準となっていた。

第3 審査意見

特に指摘すべき事項はないが、次のとおり要望する。

今回の審査では、本市の健全化判断比率は法令の定める早期健全化基準を下回っており、その限りでは「良好な」状態にあるといえるが、本市財政を取り巻く環境は、依然厳しい状況にある。今後も、指標の推移には十分留意し健全な財政運営に努められたい。

<参考>

1 実質赤字比率

地方公共団体の最も主要な会計である「一般会計」等に生じている赤字の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものの。

【算式】

$$\text{実質赤字比率} = \frac{\text{一般会計等の実質赤字額}}{\text{標準財政規模}}$$

2 連結実質赤字比率

公立病院、下水道その他の地方公営企業を含む「地方公共団体の全会計」に生じている赤字の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものの。

【算式】

$$\text{連結実質赤字比率} = \frac{\text{連結実質赤字額}}{\text{標準財政規模}}$$

3 実質公債費比率

地方公共団体の借入金（地方債）の返済額（公債費）の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものの。

【算式】

$$\text{実質公債費比率} = \frac{\text{(地方債の元利償還金+準元利償還金) - (特定財源+元利償還金及び準元利償還金に係る基準財政需要額算入額)}}{\text{標準財政規模 - (元利償還金及び準元利償還金に係る基準財政需要額算入額)}} \\ \text{(3か年平均)}$$

4 将来負担比率

地方公共団体の現在抱えている借入金（地方債）その他の負債の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものの。

【算式】

$$\text{将来負担比率} = \frac{\text{将来負担額 - (充当可能基金額+特定財源見込額+地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額)}}{\text{標準財政規模 - (元利償還金及び準元利償還金に係る基準財政需要額算入額)}}$$



第7号報告

資金不足比率の報告について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律（平成19年法律第94号）第22条第1項の規定により、監査委員の意見を付けて、下記のとおり資金不足比率（平成30年度決算数値）を報告する。

令和元年8月30日

稲城市長 高橋勝浩

記

特別会計の名称	資金不足比率(%)	備考
病院事業会計	—	資金不足比率の算定に用いた事業の規模は、政令第17条第1号の規定により算定した。
下水道事業特別会計	—	資金不足比率の算定に用いた事業の規模は、政令第17条第3号の規定により算定した。

備考

- 1 「—」は、資金不足が生じていないことを示す。
- 2 「政令」とは、地方公共団体の財政の健全化に関する法律施行令（平成19年政令第397号）である。





稲監第 418-2 号
令和元年 8 月 20 日

稲城市長 高橋勝浩様

稲城市監査委員 軍司信
稲城市監査委員 坂田たけふ



平成 30 年度資金不足比率の審査意見について

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第 22 条第 1 項の規定に基づき審査に付された資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類について審査した結果、別紙のとおり意見を付します。



平成 30 年度 資金不足比率審査意見書

第 1 審査の概要

1 審査の対象及び範囲

平成 30 年度資金不足比率（稲城市病院事業会計資金不足比率及び稲城市下水道事業特別会計資金不足比率）及びその算定の基礎となる事項を記載した書類

2 審査の実施期間

令和元年 7 月 17 日から令和元年 8 月 19 日まで

3 審査の手続

審査は、提出された資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類が地方公共団体の財政の健全化に関する法律等関係法令に準拠して適正に作成されているかについて、通常実施すべき審査手続及び必要と認めるその他の審査手続により実施した。

第 2 審査の結果

審査に付された下記の会計に関する資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正に作成されているものと認められた。

記

(単位：%)

指 標	平成 30 年度	経営健全化基準
稲城市病院事業会計 資金不足比率	非該当 (△19.2)	20.0
稲城市下水道事業特別会計 資金不足比率	非該当 (△10.8)	20.0

備考：資金不足が生じていない場合は、「非該当」を記載している。

なお、参考のため、計算上の数値を括弧内に記載している。

1 病院事業会計の資金不足比率

平成30年度病院事業会計の資金不足額はなかった。

2 下水道事業特別会計の資金不足比率

平成30年度下水道事業特別会計の資金不足額はなかった。

第3 審査意見

特に指摘すべき事項はないが、次のとおり要望する。

今回の審査では、本市の病院事業会計及び下水道事業特別会計において資金不足は生じておらず、その限りでは「良好な」状態にあるといえるが、本市財政を取り巻く環境は、依然厳しい状況にある。今後も、指標の推移には十分留意し健全な財政運営に努められたい。

<参考>

資金不足比率

公立病院、下水道その他の地方公営企業の資金不足の大きさを、その地方公営企業の事業規模と比較して指標化し、経営状態の悪化の度合いを表したもの。

【算式】

$$\text{資金不足比率} = \frac{\text{資金の不足額}}{\text{事業の規模}}$$

第8号報告

専決処分の報告について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第180条第1項の規定により、議会において指定されている事項について専決処分したので、同条第2項の規定により報告する。

令和元年8月30日

稲城市長 高橋勝浩

地方自治法（昭和22年法律第67号）第180条第1項の規定により議会において指定されている事項について専決処分した和解及び損害賠償の額の決定に関する報告

1 対象事件 平成30年4月1日から平成31年3月31日までの間に専決処分した和解及び損害賠償の額の決定

2 和解及び損害賠償の額の決定の内容

(1) 庁用自動車の運転中の事故に係るもの

決定年月日	損害賠償の額	相手方
平成30年7月5日	81,973円	稲城市外在住の個人

(2) 公の営造物の管理上の瑕疵により発生した事故に係るもの

決定年月日	損害賠償の額	相手方
平成30年4月18日	260,635円	稲城市外在住の個人
平成30年5月2日	224,060円	稲城市在住の個人
平成30年10月4日	280,539円	東京都あきる野市野辺243番地5 株式会社東宝防災
平成30年12月21日	393,130円	稲城市在住の個人
平成31年3月4日	111,315円	稲城市在住の個人

第9号報告

平成30年度稲城市国民健康保険高額療養費貸付基金の運用状況に関する報告

地方自治法（昭和22年法律第67号）第241条第5項の規定により、平成30年度稲城市国民健康保険高額療養費貸付基金の運用状況に関する報告書を別紙のとおり提出する。

令和元年8月30日

稲城市長 高橋勝浩



別紙

平成30年度稲城市国民健康保険高額療養費貸付基金の運用状況に関する報告書

1 総括表

(単位 円)

1	原	資	5,000,000
内 訳	前	年度末残高	5,000,000
	増	加額	0
2	前	年度繰越額	5,000,000
内 訳	現	金	5,000,000
	貸	付金	0
3	総	収入金額(償還金)	0
4	総	支出金額(貸付金)	0
5	本	年度末残高	5,000,000
内 訳	現	金	5,000,000
	貸	付金	0
6	回	転数 $\frac{\text{(総支出金額)}}{\text{(原資)}}$	0.00回

2 月別収支状況表

(単位 円)

月 別	繰越金額	収入金額 (償還金)	支出金額 (貸付金)	差引金額	貸付金現在高
平成30年 4月	(前年度繰越分) 5,000,000	0	0	5,000,000	0
5月		0	0	5,000,000	0
6月		0	0	5,000,000	0
7月		0	0	5,000,000	0
8月		0	0	5,000,000	0
9月		0	0	5,000,000	0
10月		0	0	5,000,000	0
11月		0	0	5,000,000	0
12月		0	0	5,000,000	0
平成31年 1月		0	0	5,000,000	0
2月		0	0	5,000,000	0
3月		0	0	5,000,000	0
合 計	(前年度繰越分) 5,000,000	0	0	(翌年度繰越分) 5,000,000	0

第10号報告

平成30年度稲城市介護保険高額介護サービス費等貸付基金の運用状況に関する報告

地方自治法（昭和22年法律第67号）第241条第5項の規定により、平成30年度稲城市介護保険高額介護サービス費等貸付基金の運用状況に関する報告書を別紙のとおり提出する。

令和元年8月30日

稲城市長 高橋 勝 浩



別紙

平成30年度稲城市介護保険高額介護サービス費等貸付基金の運用状況に関する報告書

1 総括表

(単位 円)

1	原	資	2,000,000
内 訳	前	年度末残高	2,000,000
	増	加額	0
2	前	年度繰越額	2,000,000
内 訳	現	金	2,000,000
	貸	付金	0
3	総	収入金額(償還金)	0
4	総	支出金額(貸付金)	0
5	本	年度末残高	2,000,000
内 訳	現	金	2,000,000
	貸	付金	0
6	回	転数 $\frac{\text{(総支出金額)}}{\text{(原資)}}$	0.00回

2 月別収支状況表

(単位 円)

月 別	繰越金額	収入金額 (償還金)	支出金額 (貸付金)	差引金額	貸付金現在高
平成30年 4月	(前年度繰越分) 2,000,000	0	0	2,000,000	0
5月		0	0	2,000,000	0
6月		0	0	2,000,000	0
7月		0	0	2,000,000	0
8月		0	0	2,000,000	0
9月		0	0	2,000,000	0
10月		0	0	2,000,000	0
11月		0	0	2,000,000	0
12月		0	0	2,000,000	0
平成31年 1月		0	0	2,000,000	0
2月		0	0	2,000,000	0
3月		0	0	2,000,000	0
合 計	(前年度繰越分) 2,000,000	0	0	(翌年度繰越分) 2,000,000	0

第11号報告

平成30年度稲城市後期高齢者医療高額療養費貸付基金の運用状況に関する報告

地方自治法（昭和22年法律第67号）第241条第5項の規定により、平成30年度稲城市後期高齢者医療高額療養費貸付基金の運用状況に関する報告書を別紙のとおり提出する。

令和元年8月30日

稲城市長 高橋勝浩



別紙

平成30年度稲城市後期高齢者医療高額療養費貸付基金の運用状況に関する報告書

1 総括表

(単位 円)

1 原 資		1,000,000
内 訳	前年度末残高	1,000,000
	増 加 額	0
2 前年度繰越額		1,000,000
内 訳	現 金	1,000,000
	貸 付 金	0
3 総収入金額 (償還金)		0
4 総支出金額 (貸付金)		0
5 本年度末残高		1,000,000
内 訳	現 金	1,000,000
	貸 付 金	0
6 回 転 数	$\frac{\text{(総支出金額)}}{\text{(原 資)}}$	0.00回

2 月別収支状況表

(単位 円)

月 別	繰越金額	収入金額 (償還金)	支出金額 (貸付金)	差引金額	貸付金現在高
平成30年 4月	(前年度繰越分) 1,000,000	0	0	1,000,000	0
5月		0	0	1,000,000	0
6月		0	0	1,000,000	0
7月		0	0	1,000,000	0
8月		0	0	1,000,000	0
9月		0	0	1,000,000	0
10月		0	0	1,000,000	0
11月		0	0	1,000,000	0
12月		0	0	1,000,000	0
平成31年 1月		0	0	1,000,000	0
2月		0	0	1,000,000	0
3月		0	0	1,000,000	0
合 計	(前年度繰越分) 1,000,000	0	0	(翌年度繰越分) 1,000,000	0